文化の香りに満ちあふれる
市民の文化活動の舞台づくり

二十一世紀に向け、文化の香りに満ちあふれる文化のまちづくりが期待される都留市では、平成七年度開館を目指して、楽山地区に文化ホールの建設を本年度着工します。

文化ホールは芸術の殿堂、市の中心的文化施設として、市民の皆さんの自主的で創造的な文化活動の拠点として、音楽ホールを主とし他のジャンルにも幅を広げることで、多くの人に参加するチャンスを与えることを目的とする施設です。

施設着工にあたっては、都留市総合会館(仮称)構想検討委員会、都留市文化ホール(仮称)建設懇話会、都留市新しいまちづくり推進協議会、SANTIキャンパスタウン都留を創造する市民の会、都留文科大学学生自治会、大学周辺まちづくり推進協議会等々、市民の皆さんの様々な意見をもとに、検討を積み重ねてきました。

音響条件、視覚条件および動員数等を考慮し、地上二階建延べ面積四、二五一平方メートルで、客席八百二十四席の大ホールと三百席の小ホール、野外ステージ、練習室など、文化活動の拠点として市民の皆さんに親しんでいただける施設が建設されることになりました。

管理・運営にあたっては、財団法人による運営方式を検討し、本年度設立するための諸準備を進めます。また、世界のクラシック音楽界ですばらしい活躍をしている山梨県出身のピアニスト、中村紘子さんにも監修と運営について芸術観点からご意見をいただくなど、市民・芸術家の方々の意見を反映しながら、開館に向けてのソフト事業の諸準備と合わせ、実施計画策定に取り組んで行きます。

特色のある運営と施設の充実により、地域に根ざした文化活動の場、市民の皆さんが優れた芸術文化に触れる機会の場としての文化ホールを目指します。

客席　視覚的にも音響的にも均質な状態を確保しやすいワンスロープ型のゆったりとした客席に、サイドバルコニーを巡らし雰囲気を添えます。

内装　車イス席、難聴者用設備、オーケストラピットなども設置します。

舞台　できるだけ木を用い、響きのよいホールを実現。壁面を一部ガラスとし、開放的な空間とします。オーケストラと合唱団が同時に演奏できる広さを確保(全体幅32メートル、間口18メートル、奥行12メートル、開口高9メートル)。演目に合わせてプロセニアム開口は、間口16～18メートル、高さ7・5～9メートルに調整可能です。

舞台設備　音響反射板、吊物バトン、照明バトン、各種幕類等を設置します。

照明・音響設備　音楽、演劇、集会等各使用目的に合わせて利用できる設備とする。外からの機器の持ち込みに対応できるよう考慮。

楽屋　大ホール4室で60人程度、小ホール2室で10人程度収容。(各室シャワー、洗面等設置)演奏者に気持ち良く舞台に立ってもらうためのサポート空間としてラウンジを設置します。

小ホール　小コンサート、小演劇、集会等に対応。可動席のため、平土間としてリハーサル、その他多目的な利用が可能です。

ホワイエ　来館者が快適にすごせるような喫茶、クローク等の設備を充実すると共に、観劇の期待、余韻を大切にした雰囲気ある空間とします。

その他　練習室、談話室、会議室、事務室、映写室、調整室などを設けます。